

安全データシート

作成日

2016年7月22日

1. 製品及び会社情報

製品名 : KIWALON POLYESTER BLUE BRF 200 POWDER
 会社名 : 紀和化学工業株式会社
 住所 : 〒640-8254 和歌山市南田辺丁3番地
 担当部門 : 染料事業部 雄松研究所 技術開発部
 電話番号 : 073-435-1722
 Fax番号 : 073-435-1723
 緊急連絡先 : 073-435-1722
 推奨用途及び使用上の制限 : 繊維染色用分散染料 (工業用)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類 : 分類できない
 可燃性・引火性ガス : 分類対象外
 可燃性・引火性エアゾール : 分類対象外
 可燃性・酸化性ガス : 分類対象外
 高压ガス : 分類対象外
 引火性液体 : 分類対象外
 可燃性固体 : 分類できない
 自己反応性化学品 : 分類できない
 自然発火性液体 : 分類対象外
 自然発火性固体 : 区分外
 自己発熱性化学品 : 分類できない
 水反応可燃性化学品 : 区分外
 酸化性液体 : 分類対象外
 酸化性固体 : 分類できない
 有機過氧化物 : 分類対象外
 金属腐食性物質 : 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 分類できない
 急性毒性 (経皮) : 分類できない
 急性毒性 (吸入: ガス) : 分類対象外
 急性毒性 (吸入: 蒸気) : 分類できない
 急性毒性 (吸入: 粉塵) : 分類できない
 急性毒性 (吸入: ミスト) : 分類対象外
 皮膚腐食性・刺激性 : 分類できない
 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 : 分類できない
 呼吸器感作性 : 分類できない
 皮膚感作性 : 分類できない
 生殖細胞変異原性 : 分類できない
 発がん性 : 分類できない
 生殖毒性 : 分類できない
 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : 分類できない
 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) : 分類できない
 吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水性環境有害性 (急性) : 分類できない
 水性環境有害性 (慢性) : 分類できない
 オゾン層への有害性 : 分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル : 該当なし
 注意喚起語 : 該当なし
 危険有害性情報 : 該当情報なし

注意書き

安全対策 : 防塵マスク、保護眼鏡、ゴム手袋、保護衣を着用すること。

取り扱い後は手や顔等をよく洗い、うがいをする。

応急措置 : 目に入った場合は直ちに水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗浄すること。

眼の刺激、痛みが持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合は水と石鹸でよく洗うこと。
 皮膚刺激、発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 吸入した場合は新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師の診断、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合は水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

保管 : 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。涼しいところに保管すること。
 廃棄 : 内容物/容器を廃棄する時は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

国・地域情報 : 情報なし

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
 化学品名又は一般名 : 分散染料
 成分及び含有量 : ①分散染料
 ②分散剤
 ③水分 (約5%)
 分子式 : -
 C A S 番号 : 全ての成分が C A S 番号有り
 官報公示整理番号 (化審法) : 全ての成分が登録有り (水は対象外)
 官報公示整理番号 (安衛法) : 全ての成分が登録有り (水は対象外)

4. 応急措置

目に入った場合 : 直ちに水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗浄すること。
 皮膚に付着した場合 : 眼の刺激、痛みが持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 汚染された衣服や靴等の汚れを落した後、付着部を水と石鹸でよく洗うこと。
 皮膚刺激、発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師の診断、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合は、水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
 吐き出させる場合は、嘔吐物が気管に流入しないように注意すること。
 応急措置をする者の保護 : 救助者は防塵マスク、保護眼鏡、ゴム手袋等の保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、大量の霧状水
 使ってはならない消火剤 : 情報なし
 特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、ハルゲン化水素等の有害なガスが含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意すること。
 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。激しく加熱すると燃焼する。
 特有の消火方法 : 安全に対処できるならば燃焼源を断ち、火災区域から容器を移動する。
 適切な消火剤を使用して消火する。
 消火作業は可能な限り風上から行う。
 関係者以外は安全な場所に退避させる。
 周囲の設備等に散水して冷却する。
 消火のための放水等により、製品及び他の化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な呼吸用保護具、防護服 (耐熱性) を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具及び緊急措置 : 付近の着火源、可燃物を全て取り除く。
 関係者以外の立ち入りを禁止する。
 作業者は防塵マスク (必要に応じて呼吸用保護具)、保護眼鏡、ゴム手袋等の保護具を着用する。
 屋内など密閉された場所の場合は十分に換気を行う。
 屋外の場合は、風上から作業し、風下の人を退避させる。
 環境に対する注意事項・封じ込め及び浄化方法・機材 : 漏出物を河川、下水等の環境中に放出してはならない。
 吸引機、スコップ、ウエス等で密閉可能な空容器に回収し、残りを雑巾等でよく拭き取り、後で廃棄処理する。
 大量に漏出した場合には盛土で囲い、シート等で覆うなど適切な措置をして汚染が広がるのを防止する。
 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取除く (近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
 着火した場合に備えて、消火剤を準備しておく。
 シート等で覆うなど適切な措置をして漏出物の散乱を防ぐ。
 漏出物が河川、下水等の環境中に流出しないよう、盛土で囲うなど適切な措置を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- : 作業場に局所排気装置等の換気設備対策を行い、十分に換気する。
- 防塵マスク、保護眼鏡、ゴム手袋等の保護具を着用する。
- 取扱い後は容器を密封する。
- 取扱い後は手や顔等をよく洗う。
- 火気厳禁。

局所排気・全体排気

安全取扱い注意事項

- : 局所排気、全体排気を行う。
- : 上記の技術的対策を実施する。
- 酸化剤・還元剤・過酸化物質・強酸・強アルカリ等、他の化学物質が混入しないよう注意する。

保管

技術的対策

- : 火気、熱源から遠ざけ、高温にならない場所（常温の屋内倉庫等）に保管する。
- 容器は密閉し、酸化剤・還元剤・過酸化物質・強酸・強アルカリ等の危険物と同一場所に保管しない。

適切な保管条件

- : 容器は密閉し、屋内の通気のよい場所に保管する。
- 火気、高温、直射日光、水濡れを避ける。

安全な容器包装材料

- 酸化剤・還元剤・過酸化物質・強酸・強アルカリ等の危険物と同一場所に保管しない。
- : 提供製品容器に準ずる。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

- : 設定されていない。

許容濃度

- : 8mg/m³（第3種粉塵として）[日本産業衛生学会]
- 10mg/m³（他に分類できない粉塵として）[ACGIH]

設備対策

- : 取扱い場所の近くに、シャワー、手洗い、洗眼設備を設置すること。
- 作業場には局所排気装置、全体換気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

- : 呼吸器用保護具

手の保護具

- : 不透水性（耐薬品、耐溶剤）保護手袋

眼の保護具

- : 保護眼鏡

皮膚及び身体への保護具

- : 静電気防止加工の長袖保護衣

衛生対策

- : 取扱い後は手や顔等をよく洗い、うがいをすること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状

- : 粉体

色

- : 黒色

臭い

- : 軽微な臭い

pH値

- : 約7.0～9.0 (2g/100cc)

融点

- : データなし

沸点・初留点及び沸騰範囲

- : データなし

引火点

- : データなし

自然発火温度

- : データなし

燃焼性

- : データなし

爆発範囲

- : データなし

蒸気圧

- : データなし

蒸気密度

- : データなし

蒸発速度

- : データなし

比重（密度）

- : データなし

水に対する溶解度

- : データなし（染料：殆ど不溶～難溶、分散剤：可溶）

有機溶剤に対する溶解度

- : データなし

オクタン/水分配係数

- : データなし

分解温度

- : データなし

粉塵爆発下限濃度

- : データなし

その他のデータ

- : 比重：約0.50～0.90 g/cm³

10. 安定性及び反応性

安定性

- : 通常の取扱い条件においては安定である。

危険有害反応可能性

- : データなし

避けるべき条件

- : データなし

混触危険物質

- : データなし

危険有害な分解生成物

- 酸化剤、還元剤、過酸化物質、強酸、強アルカリとの接触は危険と考えられる。
- : 燃焼した場合、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、硫酸酸化物、ハロゲン化水素などの有害なガスが発生する。

1 1. 有害性情報

急性毒性	
経口	: データなし
経皮	: データなし
吸入	: データなし
その他の情報	: データなし
皮膚腐食性・刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	: データなし
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: データなし

1 2. 環境影響情報

急性水生毒性	: データなし
慢性水生毒性	: データなし
生物蓄積性	: データなし
急速分解性 (生分解性等)	: データなし (生分解性は殆どないまたは難分解性と推測される。)
オゾン層への有害性	: データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係法規・法令を遵守して廃棄する。 容器、使用設備等を洗淨した排水等は河川や下水などの環境中にそのまま放出しないこと。
汚染容器・包装	: 容器・包装を廃棄する場合は、内容物を完全に除去し、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係法規・法令を遵守して廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	: 国連分類 : 国連の定義による危険物に該当しない。 : 国連番号 : なし
輸送の特定の安全対策	: 運搬に際しては容器に破損がないことを確かめ、転倒・落下・損傷が起きないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

1 5. 適用法令

火薬類取締法	: 非該当
高圧ガス保安法	: 非該当
消防法	: 非該当
化審法	: 非該当
労働安全衛生法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出管理促進法 (平成20年11月21日公布の改正PRTR法)	: 非該当
船舶安全法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 「排水の生活環境項目」
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 「産業廃棄物」

1 6. その他の情報

- 文献
- ① ACGIH (American Conference of Governmental Industrial Hygienists Inc.)
米国「産業衛生専門家会議」
 - ② RTECS (Registry of Toxic Effects of Chemical Substances)
眼、皮膚刺激性、変異原性、ガン原性、生殖毒性、急性毒性、ACGIHの許容濃度勧告値、NIOSH、OSHAの許容濃度値等が記載されているデータ集
 - ③ 製品評価技術基盤機構 (NITE)
 - ④ 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター
 - ⑤ STNオンライン情報
- (その他)

本安全データシートの記載内容は、現時点で入手できた資料・情報・データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価等に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。
また、記載内容は通常の取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱ください。